

コンプソグナトウスは、映画ジュラシックパークにも登場する有名な恐竜ですが、大きくなって全長70cmほどにしかならない小型の獣脚類です。「上品なあご」という意味のこの恐竜は、1850年代後半に医師で化石収集家のオバドルファー博士によって、ドイツのパハリア地方で発見され、1861年にワグナーによって命名されました。保存の状態は不完全ですが、前肢の指の数は2本であったと考えられています。

この標本は、コンプソグナトウス・ロンギペスの完模式標本で、子どもの化石であると考えられています。おなかの部分にトカゲ類の骨がみられることから、トカゲなどをえさとしていたと考えられています。

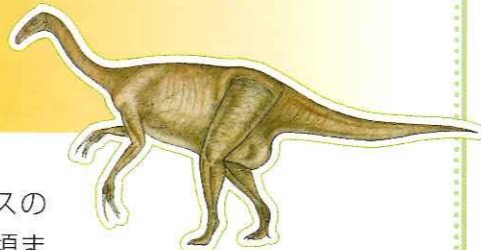


完模式標本のレプリカ
コンプソグナトウス・ロンギペスの

ダイナソーギャラリー

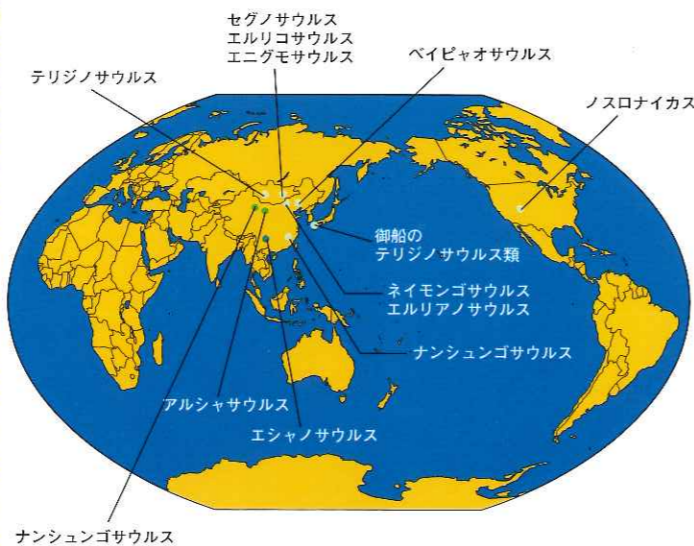
Alza Saurus
足立瑛彦さん(熊本市京町)

テリジノサウルス類について



テリジノサウルスの仲間は、2000年頃までは、中国とモンゴルでしか発見されていませんでした。現在では、アメリカからも発見されるようになり、約10種類が知られています。

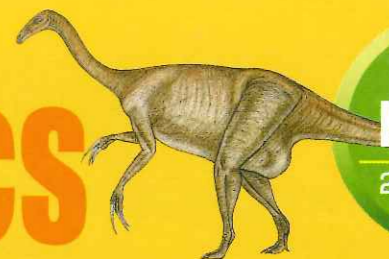
テリジノサウルス類は、ジュラ紀初め頃の地層からも発見されていますが、主に白亜紀の後期に栄えた恐竜です。テリジノサウルス類は、見つかっている化石が少なく、謎が多く残されている恐竜です。小さい頭、小さい歯、がっちりとした腰、短いしっぽなど、ほかの恐竜と比べて体つきがとてもユニークで、90年代前半までは、どの仲間の恐竜なのかははっきりわかっていませんでした。しかし、中国で発見されたアルシャサウルスの研究によって、ティラノサウルスなどが含まれる獣脚類というグループに属することがわかってきました。



テリジノサウルス類の分布

●ジュラ紀、●白亜紀前期、●白亜紀後期

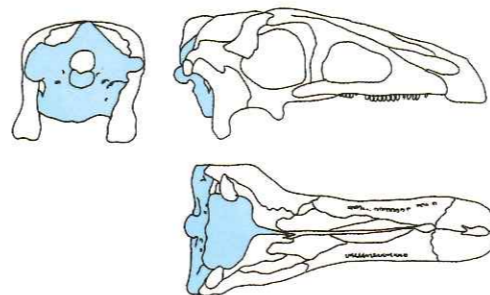
Dinosaur Topics



テリジノサウルス類の脳函化石発見!



脳函とは、いくつかの骨があつまって、脳をおさめる空間をつくっている部分のことです。



今回発見されたのは、みずいろの部分

テリジノサウルス類の脳函の化石は国内では初めての発見で、世界でもモンゴル、アメリカでの発見に続き3例目となるものです。

御船層群からはメガロサウルスの仲間(?)、ティラノサウルスの仲間、ペロキラプトルの仲間、テリジノサウルスの仲間、アンキロサウルスの仲間、イグアノドンの中間の6種類の恐竜の化石が発見されています。昨年発見されたテリジノサウルス類の歯の化石は、日本にもテリジノサウルスの仲間が生活していたことを初めて裏づけるものでした。

そして今年、テリジノサウルス類の脳函の化石が発見されました。この化石を含んでいた岩石は、1998年8月に実施された発掘調査の際に採集されたものです。ソフトボールくらいの大きさでふたつに割れた硬い岩石の中に、断面が見えている状態でした。一部分が露出しているだけだったので、「脊椎骨かも知れない」として、クリーニングの順番待ちの状態でごコンテナの中に収められていました。2000年頃から当館学芸員の池上がクリーニングに着手し、神経孔などが確認できたことから「後頭部の化石」であることを予想しましたが、十分なクリーニング時間を確保することができず、作業はゆっくりとしか進みませんでした。2003年の2月半ばになって、柴田正輝氏に作業を引き継ぎ、ほぼ全体のクリーニングが完了しました。

脳函の部分の化石は恐竜の脳や神経の仕組みを解明するための手がかりのひとつです。CTスキャンなどを使って内部を詳しく調べることによって、脳と神経のはたらきや体のはたらきを解明する手がかりを得ることができるかもしれません。また、テリジノサウルスの仲間がどのようにして種類を増やし、分布を広げていったのかということや、恐竜が鳥へ進化していった過程を明らかにする手がかりになる可能性もあります。

また、モンゴルの化石と比較することによって、モンゴルの白亜紀層の年代や環境のちがいを考えていくことができたり、当時のアジアの恐竜の分布状況について調べていくことができたりします。



土曜日だ博物館に行こう!

今年も、「土曜日だ博物館に行こう!」には、多くの子どもたちが参加しています。みなさん土曜日には何をしていますか? さあ! 博物館にいきましょう!



4月26日(土)
土曜日だ博物館に行こう
「三葉虫」
参加者20名

第1回目の「三葉虫」には20名の小学生の参加がありました。実物の三葉虫化石を見ながら、体のつくりや、生活のようすなどについて学びました。このあと、レプリカのつくり方の説明があり、なれない手つきながらもクリーム状にまぜた石膏を、三葉虫の型に流し込みました。着色して、本物そっくりに出来上がったレプリカを手にして「とてもたのしかったです。みんなにじまんしたい」と初めて参加した小学2年生の男の子はうれしそうでした。



きれいに作るぞ!

5月17日(土)
土曜日だ博物館に行こう
「腕足動物」
参加者20名

約5億年前から、海の中に生息している「腕足動物」の講座に20名の参加がありました。わたしたちには、あまりなじみのない腕足動物ですが、古生代の地層からは比較的よく見つかります。今も、有明海にすんでいるミドリシャミセンガイは、生きた化石として有名です。実習では古生代に絶滅してしまった腕足動物スピリファーなどのレプリカを作りました。石膏を型に流して固まるまでのあいだ、腕足動物について展示室で学習しました。



へえ~!



7/20(土)~7/26(土)
調査体験
恐竜化石
参加者 165名

みふねの恐竜を発見しよう!

初企画

調査ボランティアとして小・中・高校生みなさんに天君ダム発掘現場の岩石を再調査してもらいました。

博物館は、多くの人々にとって“展示を見るところ”だったり、“教室に参加して教えてもらうところ”というのが普通なのかもしれません。しかし、博物館を楽しむ方法はそれだけしかないのでしょうか?

地域を詳しく調べることは、地方の博物館の大切な仕事のひとつですが、このような博物館の調査活動の中にも多くの人々に参加していただき、楽しんでもらえる部分があると考えられます。

今回の調査体験は、これまでのセミナーとは異なり、調査への参加という新しい博物館との関わり方を模索したものと実施された行事です。



なにがでてるかな!

7月27日(日)
夏休み化石教室
参加者288名

第13回
恐竜の郷みふね

夏休み化石教室

夏休み恒例の化石教室が開催されました。今年も県内外からたくさんの方々にご参加いただきました。



化石のレプリカづくり



化石鑑定・標本作製

晴天にも恵まれた暑い一日でしたが、今年も化石ひろばにはハンマーで石を叩く音が響いていました。

この行事も今回で13回目を迎え、恐竜の郷御船町の夏の恒例行事としてすっかり定着してしまっている感じがします。最近では、事前のPRをほとんどおこなっていませんが、口コミで情報が伝わっているのか、春頃からたくさんの問い合わせをいただき、毎年、定員いっぱいのお申し込みをいただいております。特に最近では、関西など、遠方からの参加もあります。

内容も少しずつ改良を重ね、現在では化石採集と化石のレプリカづくりなどの体験活動を一日かけて楽しんでもらえるスタイルでおこなっています。難しい話はできるだけ抜きにして、子どもからおとなまで、とにかく、「やってみよう!」という感じの内容になっています。特に「化石初体験!」という方々を対象の中心に位置づけてありますが、この行事をきっかけにして、御船町の他の良いところを知らせたり、継続して博物館を活用したりできるような取り組みも考えていく必要がありそうです。

お知らせ

御船町恐竜博物館 e会員募集中!

御船町恐竜博物館では、行事案内や最新ニュースを電子メールで受け取ることができる、e会員を募集しております。

入会金、会費等は無料で、申込方法はとても簡単。下記アドレスまで、「e会員希望」と書いたメールをお送りくださるだけで結構です。

(email) info@mifunemuseum.jp

楽しい行事や話題いっぱい!!

お知らせ

「ダイナソートピックス」に記事を投稿してください!

「ダイナソートピックス」編集室では、博物館に対する提言、話題提供、研究ノート、記事など広く募集しております。多数のご投稿お待ちしております。

メールやFAXでもOK!